

a 学校教育目標	かしこく なかよく げんきよく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション(自校の使命)】 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン(自校の将来像)】 児童が満足する学校、保護者が安心する学校、地域が誇りに思う学校、そして教職員が生き甲斐や行き甲斐を感じる学校。
----------	-----------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善策		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善策	評価				
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	すすんで学び、よく考え豊かに表現する学力を育てる。	基礎・基本の学力向上	<p>【各種学力調査】</p> <p>①単元末テスト(算数)の正答率 85%</p> <p>②標準学力調査の正答率、全国平均以上100%</p> <p>【児童アンケート】</p> <p>①「算数の授業がよくわかる」85%</p> <p>②「算数の授業で、課題解決するとき、見方考え方を使って考えることができる」85%</p>	85% 【100%】	87%	91%	91%	B	<p>【各種学力調査】</p> <p>①82%(知識・理解86.4%、思考・判断・表現77.4%)</p> <p>②102%(本校72.1%、全国70.6%)</p> <p>③ドリルタイム、さよならタイムを見直し、計算技能の習熟に焦点化したことで、基礎的な技能の向上が見られた。</p> <p>●標準学力調査では、6学年中2学年が全国平均を下回った。</p> <p>【児童アンケート】</p> <p>①91% ②87%</p> <p>○児童は算数の授業を肯定的に捉えており、学び方にも一定の自信をもっている。</p> <p>○既習事項を振り返り、単元に必要な考え方を使って考える意識が育ってきた。</p>	<p>○学力調査の結果分析を基に、単元の復習を行う。</p> <p>○算数用語や用具の使い方を丁寧に指導し、図形や測定に関する知識が定着できるようにする。</p> <p>○ドリルタイムにおける計算技能の反復学習を行い、該当学年に必要な計算技能の定着を図る。</p> <p>○デジタルフォローアップシートやミラインードなどを使い、個に応じた復習の機会をもつ。</p> <p>○授業改善に向けて改善の視点を整理し、共通理解を図って進めていく。</p>	○			<p>○児童にとって授業が楽しくなるように軽重を付けながら授業を行われている。</p> <p>○学力向上に向け、計画されている取組を丁寧に行ってください。</p> <p>●教室のロッカーの整理について気になるため、指導をお願いします。</p>	
			<p>○学習規律の徹底(4月中に達成)</p> <p>・チャイムの遵守</p> <p>・学習環境の整備(机の上、筆箱)</p> <p>・「グー・ベタ・ピン」の姿勢と返事の定着</p>	<p>【児童アンケートの肯定的評価】</p> <p>①「授業の始まりと終わりのチャイムを守っていますか。」</p> <p>②「机の上や筆箱など、身の回りを整えて学習していますか。」</p> <p>③「名前を呼ばれたら返事をしていますか。」</p>	95%	92%	94%	99%	B	<p>【児童アンケートの肯定的評価】</p> <p>①94% ②94% ③95%</p> <p>○チャイム遵守、机上整理の取組は、5月、9月から徐々に改善してきており、児童の意識の向上が見られる。</p> <p>○授業後に次の授業の準備をすることを全校で取組み、授業の開始が揃うようになってきた。</p>					<p>○チャイム遵守、机上整理の声掛けを継続して行い、意識づくりを行う。</p> <p>○休み時間に準備の時間とトイレ・休憩の時間を確保するために、授業の終わりの時刻を守る。</p> <p>○できていることや頑張っていることを取り上げて評価し、達成感をもたせる。</p>
豊かな心	地域を愛する心を持つとともに、夢や目標をかなえるための生活習慣を身に付けさせる。	新たな不登校「ゼロ」	<p>○不登校の未然防止</p> <p>・全職員による綿密な家庭連携の実施、関係機関との協力的な連携実施</p> <p>・教職員の丁寧な言葉遣い</p> <p>・学校での居場所の確保</p>	<p>長期欠席児童 昨年度より減少を目指す。</p> <p>①不登校児童、9月末9人以下。1月末19人以下</p> <p>②今年度からの不登校児童0人</p> <p>③「学校に行くのが楽しい。」肯定的評価85%以上</p>	80%	97%	79%	99%	B	<p>【長期欠席児童 昨年度より減少を目指す。(昨年度25人)】</p> <p>①100% 不登校児童(30日以上欠席)、1月末 16人</p> <p>②50% 今年度からの不登校児童2人(1月末)</p> <p>③88%</p> <p>○欠席が増え始めた児童の保護者と積極的に連携を取ったことで、日数の増加を食い止めることができた。</p> <p>○児童会執行部主催の異学年交流を行ったり、構造的グループエンカウンターに取り組んだりしたことで、児童に学校に対する安心感をもたせることができた。</p> <p>●児童や保護者との連携を行っているが、新たに2名が不登校児童となった。</p>	<p>○欠席した児童の保護者には必ず電話連絡を行う。</p> <p>○長期欠席が心配される児童は、積極的に家庭と連携し、3日欠席が続いた場合は、家庭と連携した後、家庭訪問をする。</p> <p>○児童会執行部を中心とした全校への取組とともに、各学級でのグループエンカウンターを行い、学級単位の児童同士のつながりを増やしながら、心理的安全性を確保する。</p>	○			<p>○中間評価以降、改善を図られており、今後にも期待します。</p> <p>○不登校児童や家庭に対する連携、ケアを今後とも継続してください。</p>
			<p>○共感的人間関係づくり</p> <p>・児童会役員による挨拶運動、挨拶週間の実施と振り返り</p> <p>・i-checkを基に、構造的グループエンカウンターの実施</p>	<p>【児童・保護者・教員アンケートの肯定的評価】</p> <p>①「相手を意識した挨拶ができていますか。」肯定的評価90%以上</p> <p>②i-checkの散布図「個人の心の安全」の肯定的評価、全国平均(30.2%)以上。</p> <p>③「自分にはよいところがある。」肯定的評価80%以上</p>	85%	95%	93%	109%	A	<p>【児童・保護者・教員アンケートの肯定的評価】</p> <p>①90%(児童91%、保護者88%)</p> <p>②101%(30.8%(全国30.2%)) ③83%</p> <p>○児童会のあいさつ運動を通して、相手を意識した挨拶はできてきた。</p> <p>○「個人の心の安全」は、構造的グループエンカウンターを通じた人間関係づくりや学習規律を整える取り組みにより、教師と児童、児童同士の良好な人間関係を築くことができた。</p> <p>●自分から進んで挨拶ができる児童を増やす取組が必要である。</p> <p>●自分を評価できない児童に対し、肯定的な声掛けを増やす。</p>	<p>○児童会主体の「あいさつ運動」を定期的に行い、よい挨拶の例を動画で周知することで、あいさつの大切さを意識づける。</p> <p>○職員研修でi-checkの分析を行うとともに、自己肯定感の低い児童を職員間で共有し、全教職員で自己肯定感を高める声掛けを意識的に行う。</p> <p>○個人の努力を表彰する機会を増やすことや、靴そろえの優秀クラスの発表や委員会活動の発表の場を積極的に設け、頑張りを評価できる機会を増やす。</p>				
健やかな体	体力を高め、感染症予防に対する高い意識を育てる。	新体力テスト結果の向上	<p>○運動能力の向上</p> <p>・運動量を確保する体育授業の工夫を共有化</p> <p>・4月と11月の長座体前屈計測で向上率確認</p> <p>・年間を通じて外遊びや縄跳びなどの啓発</p>	<p>【4月・11月の長座体前屈の記録】</p> <p>①県及び全国平均値以上 75%以上</p> <p>【児童アンケート】</p> <p>①「運動をすることが好きですか。」肯定的評価90%以上</p>	75%	73%	96%	96%	B	<p>【4月・11月の長座体前屈の記録】①72%</p> <p>【児童アンケート】①87%</p> <p>○長座体前屈は前回の記録から18ポイント上昇した。長座体前屈強化週間に、児童一人一人が学校や家庭で努力した結果であり、運動をすることが好きという児童は、目標値より上回ることができた。</p> <p>○体育や休憩時間で、体を動かすことの楽しさを感じている。</p> <p>●長座体前屈は記録は伸びたが、全国平均値より下回った。</p>	<p>○「毎月ストレッチ・筋トレ」を提示しながら家庭とも連携し、運動する習慣を身に付けさせる。</p> <p>○5分間走、縄跳び運動などを定期的に行い、運動能力の底上げを図る。</p>	○			<p>○手洗いは日々の声かけが必要のため、保健委員会の動画での啓発は良いことだと思う。</p> <p>●体力の向上を目指し、体育授業や休憩時間の工夫を行っていただきたい。</p>
			<p>○病気や感染症予防に対する行動の向上</p> <p>・ハンカチ持参の強化週間を設定</p> <p>・ICTを活用した手洗い方法の指導</p> <p>・授業や各種便りを活用した啓発</p>	<p>【ハンカチ点検】</p> <p>①ハンカチ持参率 90%以上</p> <p>【児童意識調査の肯定的評価】</p> <p>①手洗い実施に関する肯定的評価 90%以上</p>	90%	84%	86%	96%	B	<p>【ハンカチ点検】①94%</p> <p>【手洗いの肯定的評価】①77%</p> <p>○重点取組期間を設けて指導を行ったことで、前期よりもハンカチを持参する児童が増えた。</p> <p>○保健委員がハンカチビンゴという楽しくできる取組も提案し、児童が意欲的に取り組めるようになってきた。</p> <p>●ハンカチを忘れて忘れる児童も一定数いるため、保護者とも連携しながら指導していく。</p>	<p>○ハンカチ持参とともに、ランドセルに予備を入れておくことを、保健だよりや参観日等で保護者に啓発する。</p> <p>○手洗いの大切さを伝える動画の作成やハンカチ点検、「ハンカチビンゴ」というゲーム感覚でできる取組等、保健委員会を活用した啓発を行う。</p> <p>○固定化している児童には担任から連絡する。</p>				
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに、15年間を見据えた教育を行う。	地域に信頼される学校づくり	<p>○コミュニティ・スクールの推進</p> <p>・教育課程に沿った取組の充実</p> <p>・学校だよりやトピックスでの取組の配信</p> <p>○自分事となる研修の工夫</p> <p>・R80によるまとめとヒヤリハットの交流</p>	<p>【児童アンケートの肯定的評価】</p> <p>①「田野浦小学校に通ってよかったと思いますか。」</p> <p>【保護者アンケートの肯定的評価】</p> <p>①「学校は安心して子どもを通わせることができる教育を行っている。」</p>	90%	98%	97%	108%	A	<p>【児童アンケートの肯定的評価】①95%</p> <p>【保護者アンケートの肯定的評価】①98%</p> <p>○児童の性格得意、不得意を理解し、保護者連携をその都度適切に行っている。</p> <p>○事業に対して、担任、学年、生徒指導担当、養護教諭、管理職等が関与しながら組織として解決している。</p> <p>○保護者研修では、ヒヤリハット事業を取り入れ、自分事として考え、不祥事防止に対する決意を新たにしている。</p> <p>●肯定的評価ではない児童、保護者が安心できる学校づくり向け、改善すべき内容を職員間で共有し、取組を進める。</p>	<p>○継続的に学校だより、コミュニティ・スクールだより等で学校の様子を配信する。</p> <p>○トラブルや不安感、不登校に対してチーム学校として対応する。</p> <p>○児童のよさをしっかりとほめるとともに、家庭との連携を継続的に進めていく。</p>	○			<p>○児童が「学校に通ってよかった」、保護者が「学校に通わせてよかった」の項目がどちらも95%以上となっており、素晴らしい。</p> <p>○コミュニティ・スクールの取組により、学校と民生委員、駐在所、地域の方などとの関わりが増え、人を覚えて身近な存在となることができた。</p> <p>●より多くの人材(保護者、PTAのOB、地域の方)に声掛けをして、コミュニティ・スクールとしての機能を果たしていただきたい。</p>
			<p>○チーム力を生かした計画的・協力的な業務の推進</p> <p>・時間管理と事務作業の計画、精選</p> <p>・教材の共有化</p> <p>・支持的風土の醸成</p>	<p>【超過勤務 月45時間以内】</p> <p>①在校時間一覧表による超過勤務時間</p> <p>【教職員アンケートの肯定的評価】</p> <p>①「現在、やりがい甲斐を感じることでできている。」</p> <p>②課題に対して、チームとして取り組んでいる。</p>	95%	89%	88%	93%	B	<p>【超過勤務 月45時間以内】①12月末 82%</p> <p>○9月、11月は計画的に退校できている。</p> <p>●10月(研究会)、12月(成績処理)で勤務時間が45時間を超過した。</p> <p>【教職員アンケートの肯定的評価】①87% ②96%</p> <p>○おおむね肯定的評価である。</p> <p>●個別の対応、全体への対応を調整しながら行う必要がある。</p>	<p>○校務支援システム、ICT機器を効果的に活用し、業務時間の削減を行う。</p> <p>○広島県の専門講座(学びプラス)に積極的に参加させ、やり甲斐や達成感のある経験を積ませていく。</p>				